



4日、中国雲南省昭通市魯甸県で、がれきの中から救出され搬送される負傷者（AFP時事）

雲南省地震の多発地帯

脆弱な建物密集被害大きく

中国・雲南省の地震は震源の深さが約10キロ・メートルと浅く、レンガ造りの脆弱な建物が密集する地上を強い揺れが襲った。

〈本文記事1面〉

中国の地震に詳しい静岡大防災総合センターの石川有三客員教授（地震学）によると、中国南西部の雲南省と、その北に隣接する四川省は「南北地震帯」と呼ばれる地震の多発地帯で、マ

グニチユード（M）5.5〜7級の地震が頻発している。

この地震帯の地下では地球規模のプレート（板状の岩盤）運動で、ユーラシア大陸の巨大なプレートに、南からインドのプレートが衝突して強い圧力がかかっており、多数の活断層がある。今回地震が起きた昭通市周辺は、この「地震の巣」の東端に位置する。同市近郊では1974年の地震（M

7.1）で約1500人が死亡、2012年の地震（M5.7）でも約80人が亡くなった。四川省では08年に約7万人が死亡する大地震（M8.0）が発生している。

AMDA先遣隊派遣

中国雲南省で発生した地震で、国際医療NGO「AMDA（アマダ）」（本部・岡山市）は4日、支援活動に向けた先遣隊として、本部職員の看護師と調整員の計2人を、震源地の北約400キロにある四川省成都市に派遣すると発表した。2人は5日、出発する。